

# 「9割の業務、iPadに集約」実現を

## 電子サインで工事完了確認書をやり取り

ポラスグループ（埼玉県越谷市）はデジタルツールを活用した営業活動を推進している。グループの「ポラスのリフォーム

（越谷市）では、コロナをきっかけに、営業、設計、工事担当者にiPadを支給し、業務の9割を完結できるように今取り組んでいる最中だ。

例えばリフォーム後のパースを3DやVRでプレゼンするためのアプリや、現調、見積もり、積算もiPadでできるシステムを導入。

「生産性を高めるには今までのやり方を壊して新たな取り組みをしていくべきだと思います。これまで社員1人1人にデスクトップパソコンを支給することが普通でしたが、本当にそれでいいのか、環境を見直し始めました」（ポラスのリ

フォーム、大久保典洋部長）

最近始めたのは、電子サイン。「イースタン」 という電子契約サービスを導入し、オンライン上で書類のやり取りを始めた。

具体的には、工事が終わった後の確認書のやり取りの電子化に着手。同社では従来、工事が完了したら、施主と現場担当者で完了検査を実施し、検査完了後に担当者はマネージャーに報告。問題がなければ、後日再び施主宅に訪問し、確認書にサインしてもらおうという流れだった。

確認書を持参して、サインをもらうという業務を効率化するために、このやり取りを電子サイン化。オンライン上で署名してもらおう。

「お施主さん側としても、何度も家に来られるのは大変なことですし、営業マンもサインだけでもらいに行くために時間がかかる、双方にとって良いこと」と大久保部長は話す。



ポラスのリフォーム  
大久保典洋部長